



## 棲家と牢獄

~モダニズム建築の規範性の再読による、  
新たな棲まいかたの構築~

### 1.はじめに

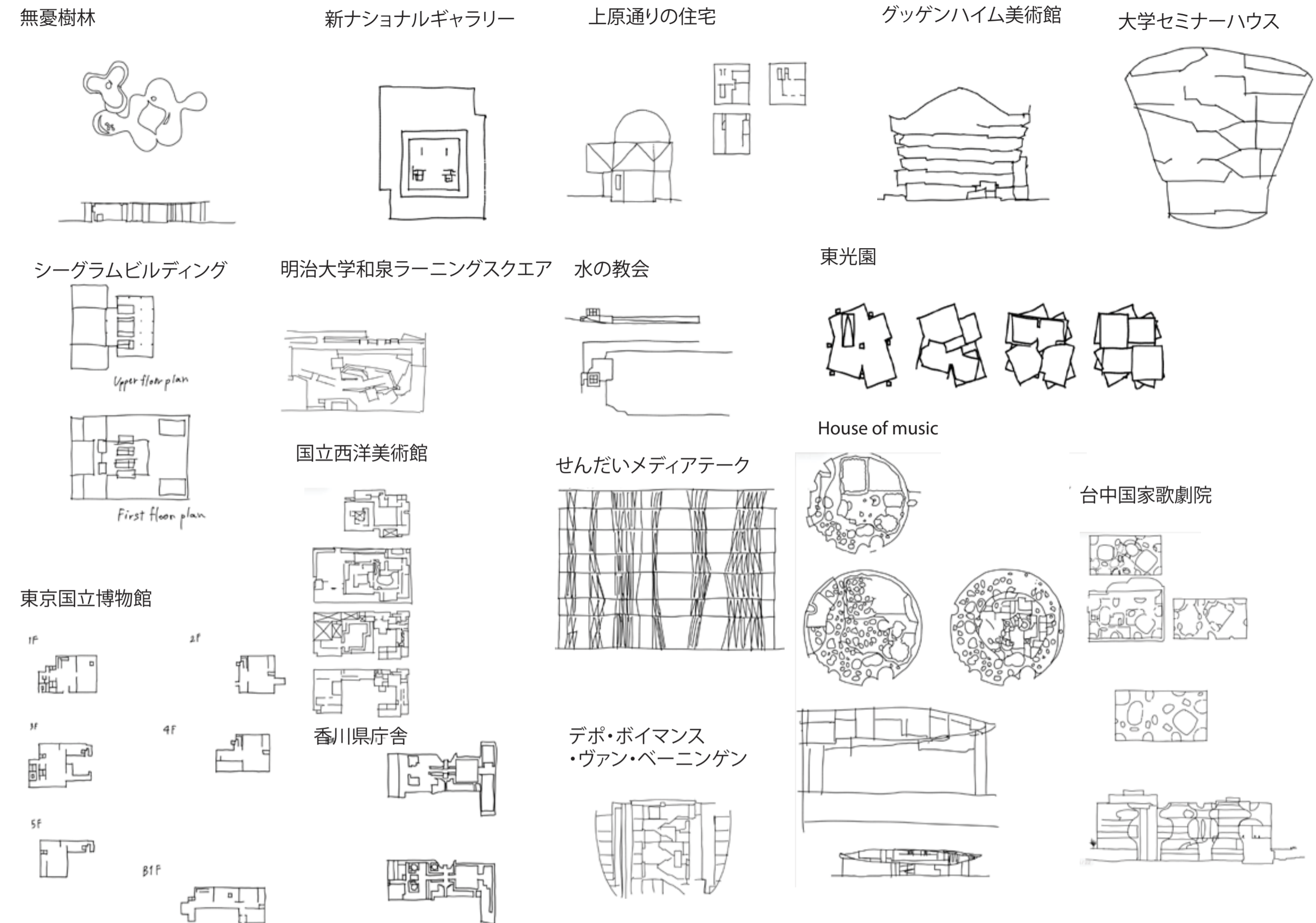
建築の近代化が進み、機能主義や経済合理性、建築計画学に則った建築が数多く誕生し、モダニズム建築は均質化が進んだ。この建築の均質化により、都市との関わりが断絶し、いつでもどこでも成立するような「複製される建築」が都市に立ち並ぶようになった。

建築の近代化が進み、機能主義や経済合理性、建築計画学に則った建築が数多く誕生し、モダニズム建築は均質化が進んだ。この建築の均質化により、都市との関わりが断絶し、いつでもどこでも成立するような「複製される建築」が都市に立ち並ぶようになった。

第二次大戦後の住宅不足や高度経済成長により、住宅の大量な効率的供給が必要とされた。効率よく供給を行うにあたって、住宅を規格化するという方法が採用された。この手法により、大量かつ迅速に住宅を供給することが可能となった。実際に、日本住宅公団(現UR都市機構)は戦後、発足10年で約30万戸、高度経済成長期には約60万戸の住宅を供給した。このことから、日本の集合住宅における建築の規格化が行われたということがいえる。集合住宅における規格化は均質化を生み、都市と断絶した集合住宅を形成した。そして、この規格化は家族の規範性を生み出し、これが規範性に基づいた暮らしを形成し、暮らしの創造性が奪われた状態を生んだ。

## 2.研究概要

この問題に対して、現代の建築家は、多様性や解放性を生み出すことで克服しようとしてきた。



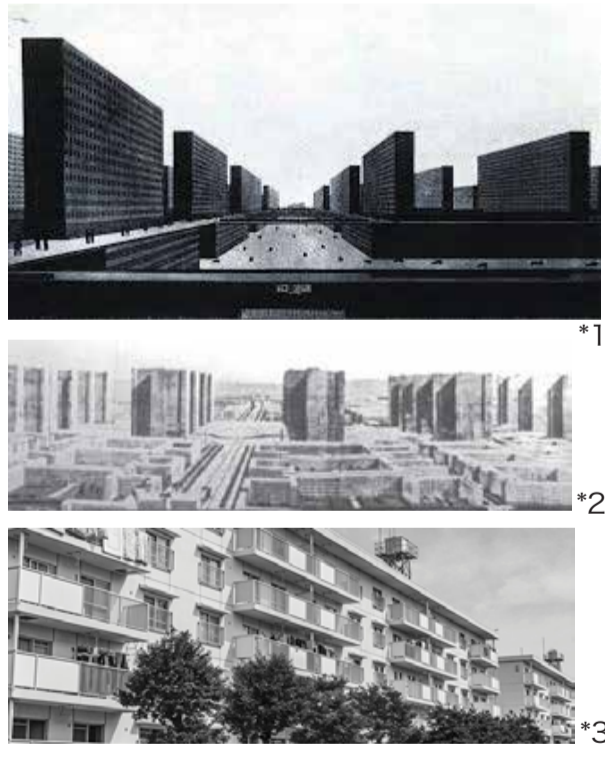
牢獄状態を検証するための、ダイアグラムスケッチ

ではなぜ、そのような状態から解放することが必要であると考えられるのか。それは、多様性や解放性を生み出してはなお、主体的な選択性を奪われた状態は起こっているからである。

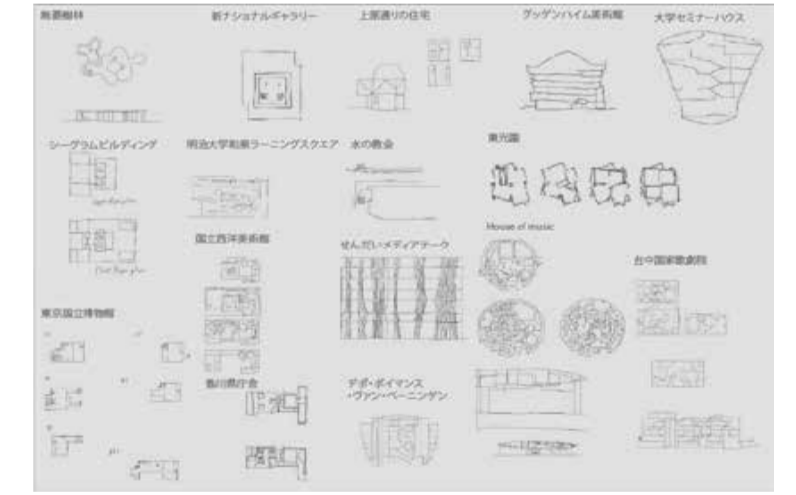
「主体的な選択性」がある状態とは、建築によって行為が規定されおらず、人が自分の意思で自由に振る舞うことができる状態である。

先述した建築家が設計した建築、具体的に集合住宅においては住戸が存在し、別の住戸に住む人とはある一定の距離を保ち、あくまで他人であり「知らない人」という距離感である。

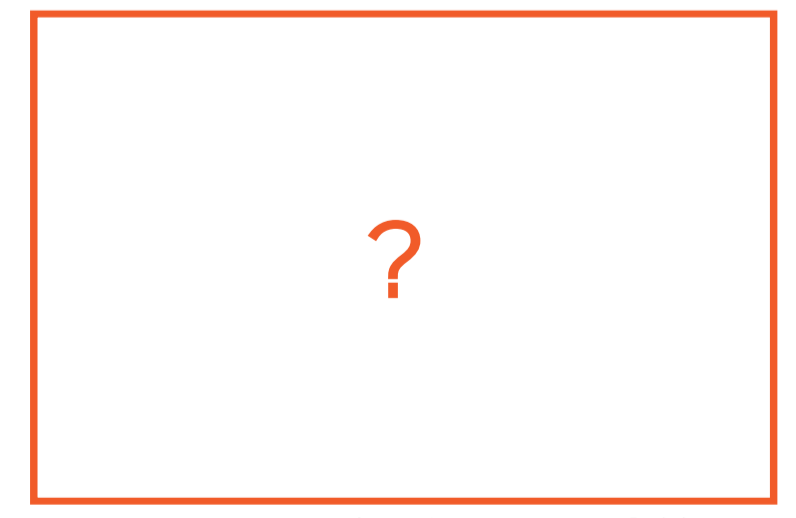
また住戸内では、家族の規範性に基づいた暮らしがあり、くらしの創造性は奪われた状態が存在するといえる。



モダニズム建築



多様性や解放性が生み出された建築



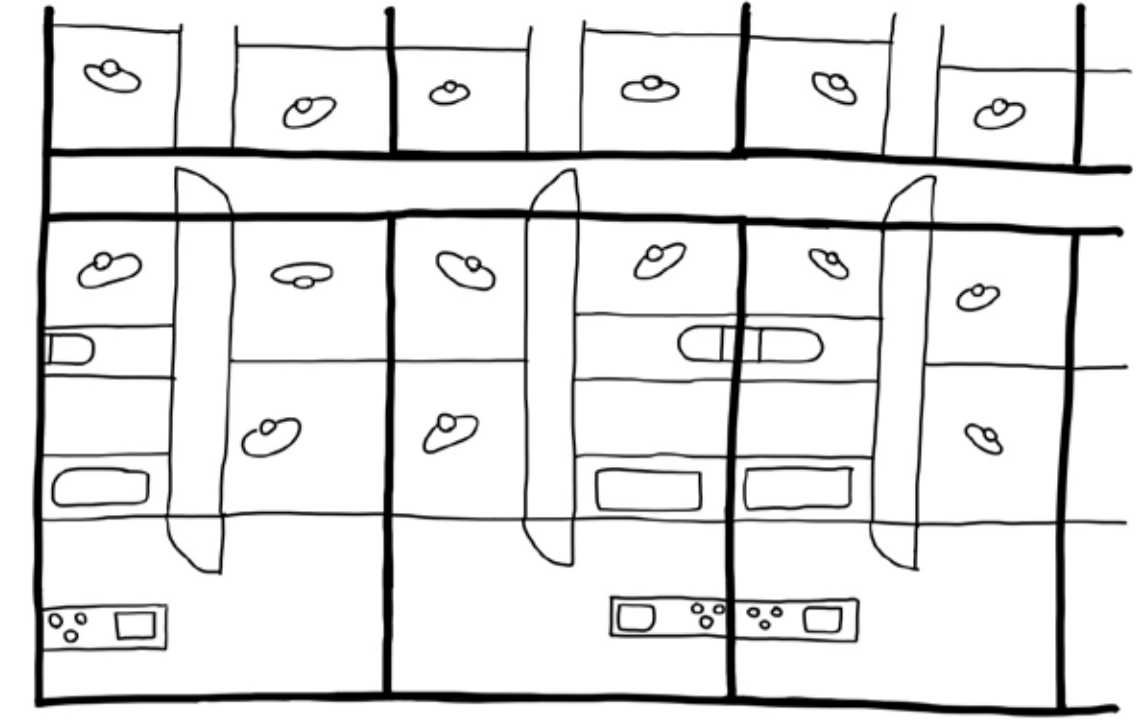
牢獄から解放された建築

(引)用 \*1:https://www.t-kougei.ac.jp/research/pdf/vol34-1-06.pdf  
\*2:https://www1.hus.ac.jp/~studio/arch-modern1/Housinng.htm  
\*3:https://www.sunrefre.jp/gas/style/danchi/

しかし、今の建築に対して必要とされているのは均質化によって生み出された、人が行為の選択肢を奪われた状態から解放することではないだろうか。

## 3.集合住宅における牢獄状態の定義

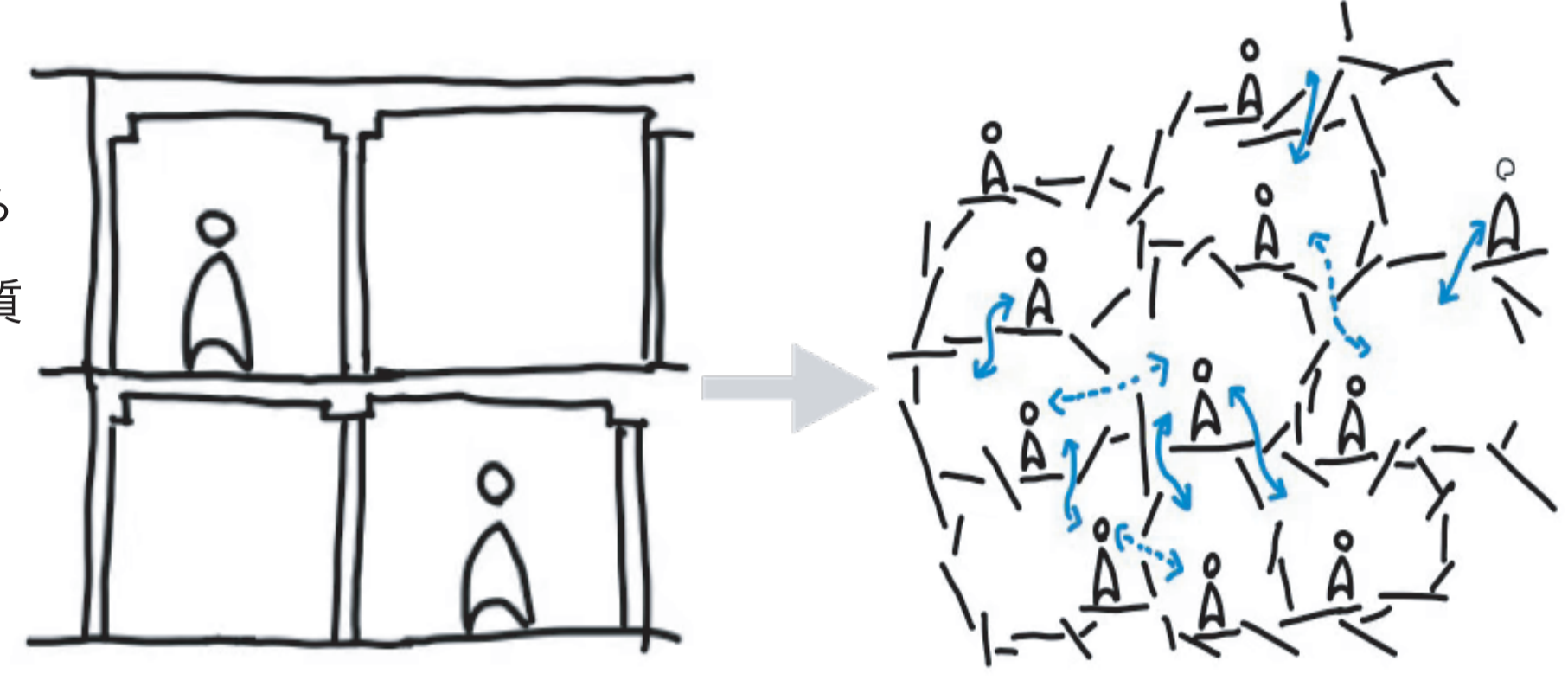
血縁関係にある家族がひとつの住戸に住み、同一住戸に別の家族が居住しないという「一家族 = 一住戸」や、間取りを見ただけで居住人数が推定されてしまうという「nLDK = n大家族」、さらに自らの住む場所があらかじめ規定され不変であるという「人がその場所を与えられて住んでいる」。本研究では、これら3条件を満たす状態を、集合住宅における「牢獄状態」と定義する。



3LDK = 3大家族という牢獄状態の一例

## 4.設計手法

住戸を仕切っている床と壁を分解し、ピース一枚一枚を角度つけながら繋ぎ合わせて棲まう場をつくる。ピースの大きさや形が不均質になることによって、つくられる場も不均質となる。この不均質な場を人が主体的に選択して棲まう。



牢獄状態

牢獄から解放された状態

### 4-1.コンセプトスタディ

従来の壁や床を分解し、人が暮らすための空間としてどのように立ち上がるのかという検討を行った。検討の結果、「ピース」というこの建築を構成するものの大きさを不均質にしなが、繋ぎ合わせて空間を立ち上げると、不均質で発見的な場ができつつ、暮らすための機能を入れることができるということが分かった。

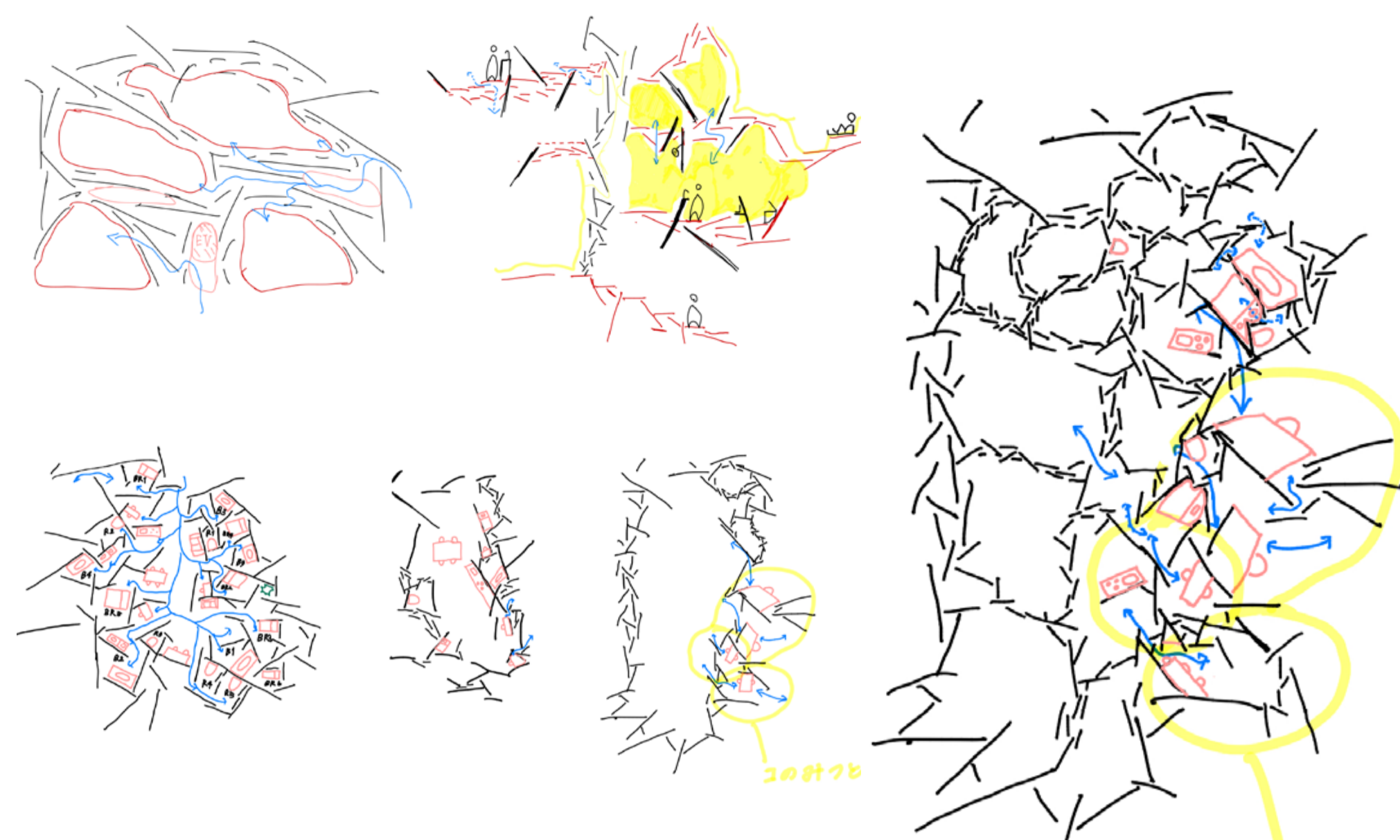


## 文献

変わる家族と変わる住まい/篠原聡子、大橋寿美子、小泉雅生  
地域社会圏主義/山本理顕  
住居論/山本理顕  
権力の空間 空間の権力/山本理顕  
住居はいかに可能か/南泰裕



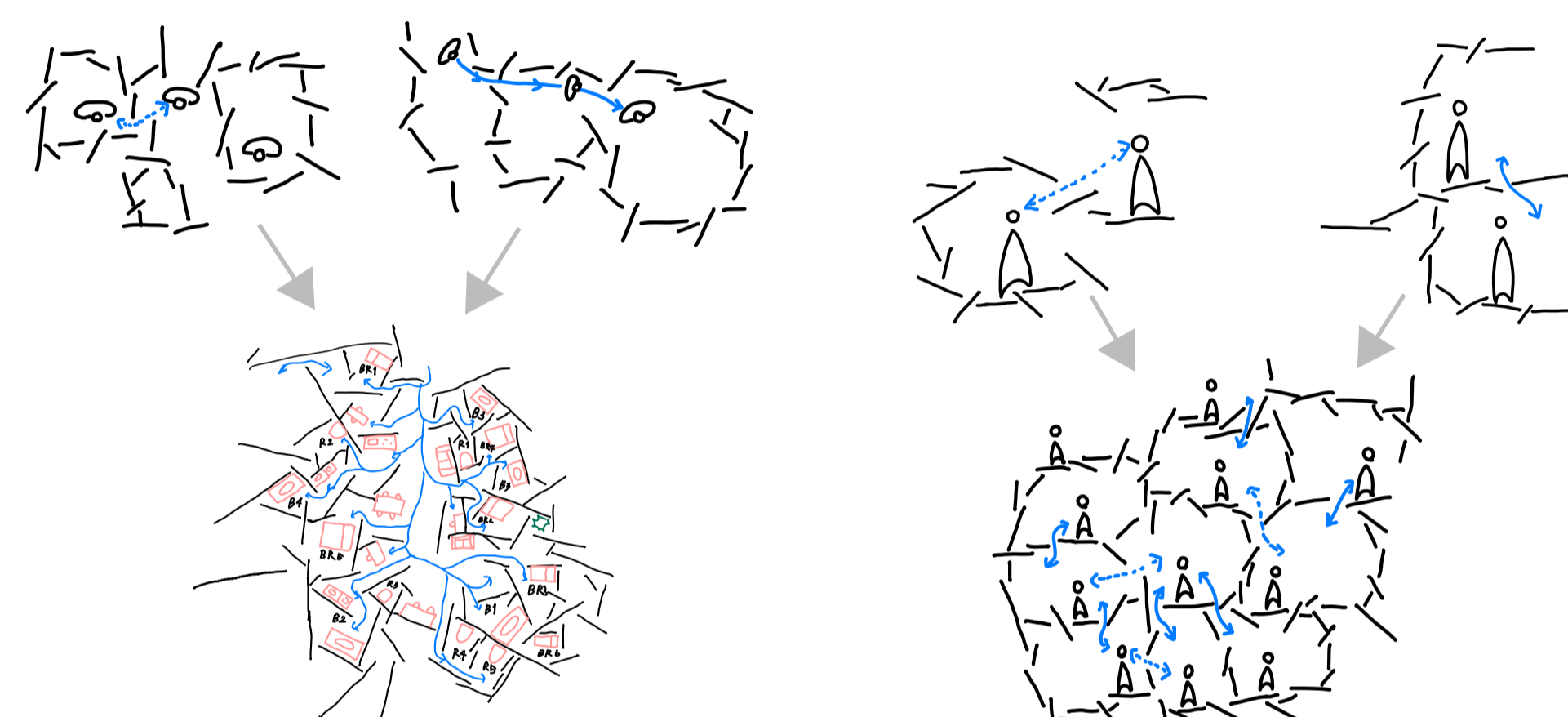
## 4-2.スタディスケッチ



棲みかたのスタディスケッチ

Plan diagram

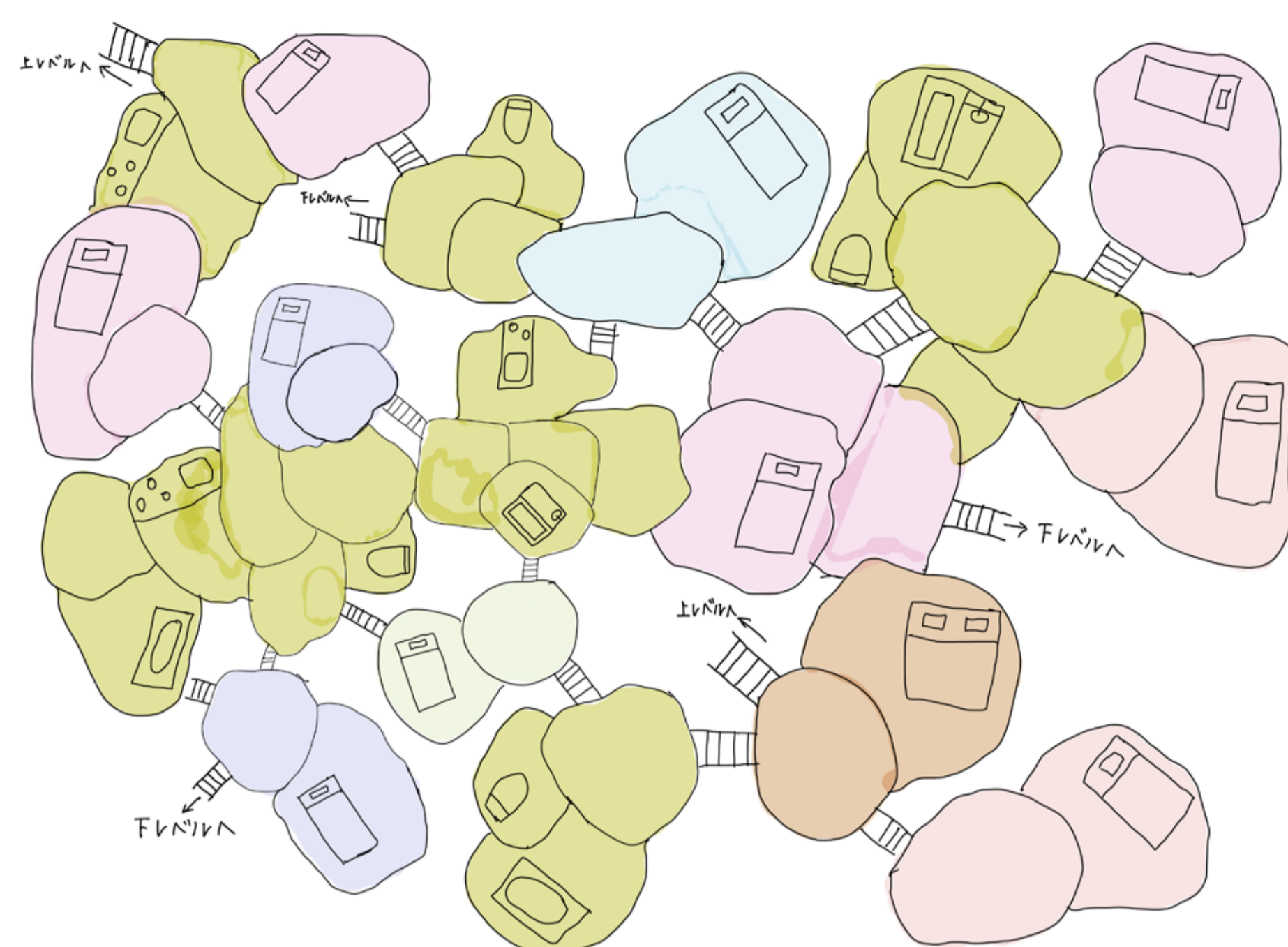
Section diagram



「棲まう」という主体的にその場を獲得して棲んでいく、そういった人たちが集まって棲んでいる状態が、集合住宅における牢獄から解放された状態

## 5-2.棲まいかた

牢獄から解放された状態の集合住宅での、「新たな棲まいかた」の一例



シェア	シングル2	カップル
ファミリー1	ファミリー2	ルームシェア1,2
シングル1		

〔設定条件〕  
用途：集合住宅  
居住人数：30人

いわゆる血縁家族を表すファミリー、学生やサラリーマン、高齢者などの単身者やカップル、ルームシェアというさまざまな関係性の人々が、それぞれの棲まう場を持つ。例えば、ファミリーのそれぞれの場の間にカップルや単身者、ルームシェアの人の場があり、その場と場を通り抜けながら暮らす。暮らしていくための、機能や設備を持つピースと機能や設備を持たない、余白的ピースの二つが存在する。この余白を人が通り抜けつつ暮らしたり、水回りを共有して暮らしたりする。これにより、不均質で発見的な場がつくられる。そして、そのような様々な場を、棲まう場として主体的に人が選択して棲まうという、新たなかたち

『棲まう』という状態で、建築の全体をつくる



ゆらいだ壁や床を介して、外とつながる



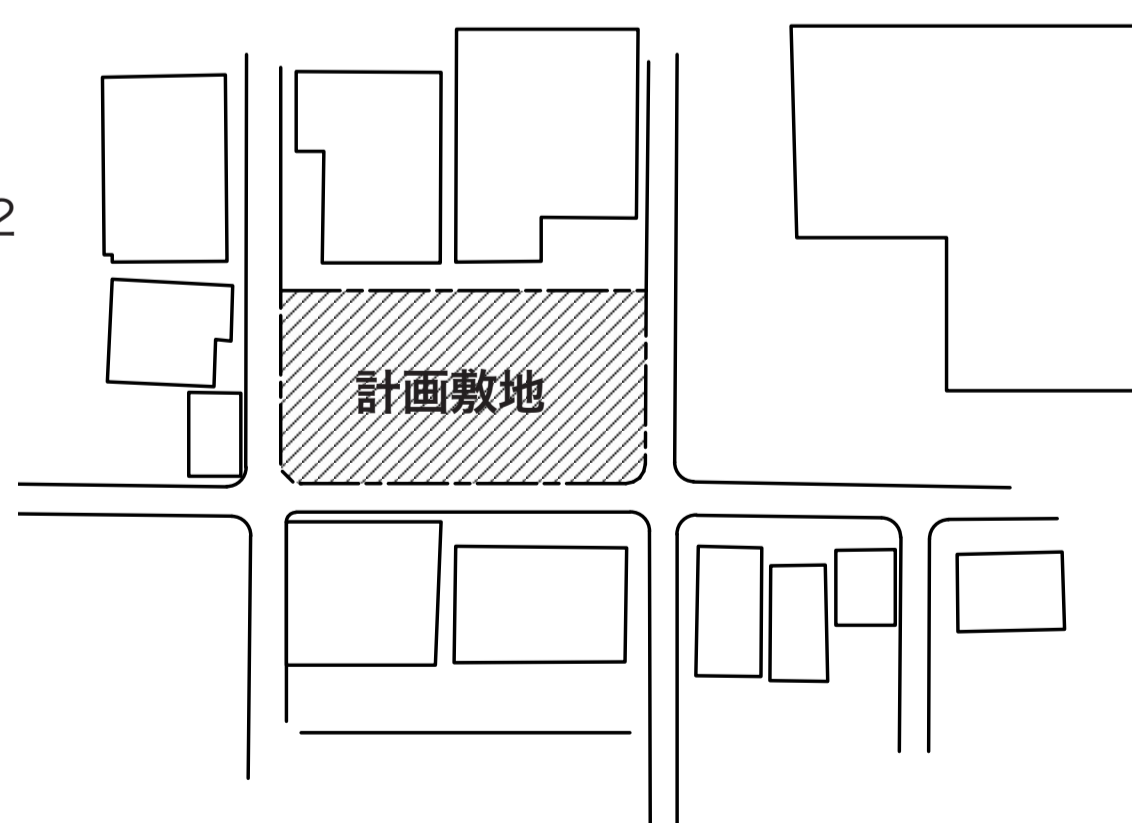
視線を適度に遮りながらつながりあう



## 5.設計提案

### 5-1.対象敷地

東京都武蔵野市吉祥寺本町2丁目13-2  
敷地面積：700m<sup>2</sup>  
用途地域：近隣商業地域  
建蔽率：80%  
容積率：300%



### 敷地選定理由

周囲には百貨店やショップ、学校、住宅などがある。それにより、この場所にはいろいろなバックグラウンドを持った人が集まると考えられる。この集合住宅において様々なバックグラウンドを持つ人々が集まって棲まうということ自体も「棲まう」ということであり、集合住宅に棲まう人々だけではなく、周囲にいろいろなバックグラウンドを持つ人々が集まることによって、棲まう人々が影響を受けながら変化していくということも「棲まう」という状態をつくることにつながると考えてこの場所を敷地として選定した。

人それぞれが主体的に場を獲得し、「棲まう」という状態を建築全体でつくる



別の場にながら、視線を通わせる



袖壁や腰壁で、洗面台を使う人を見る



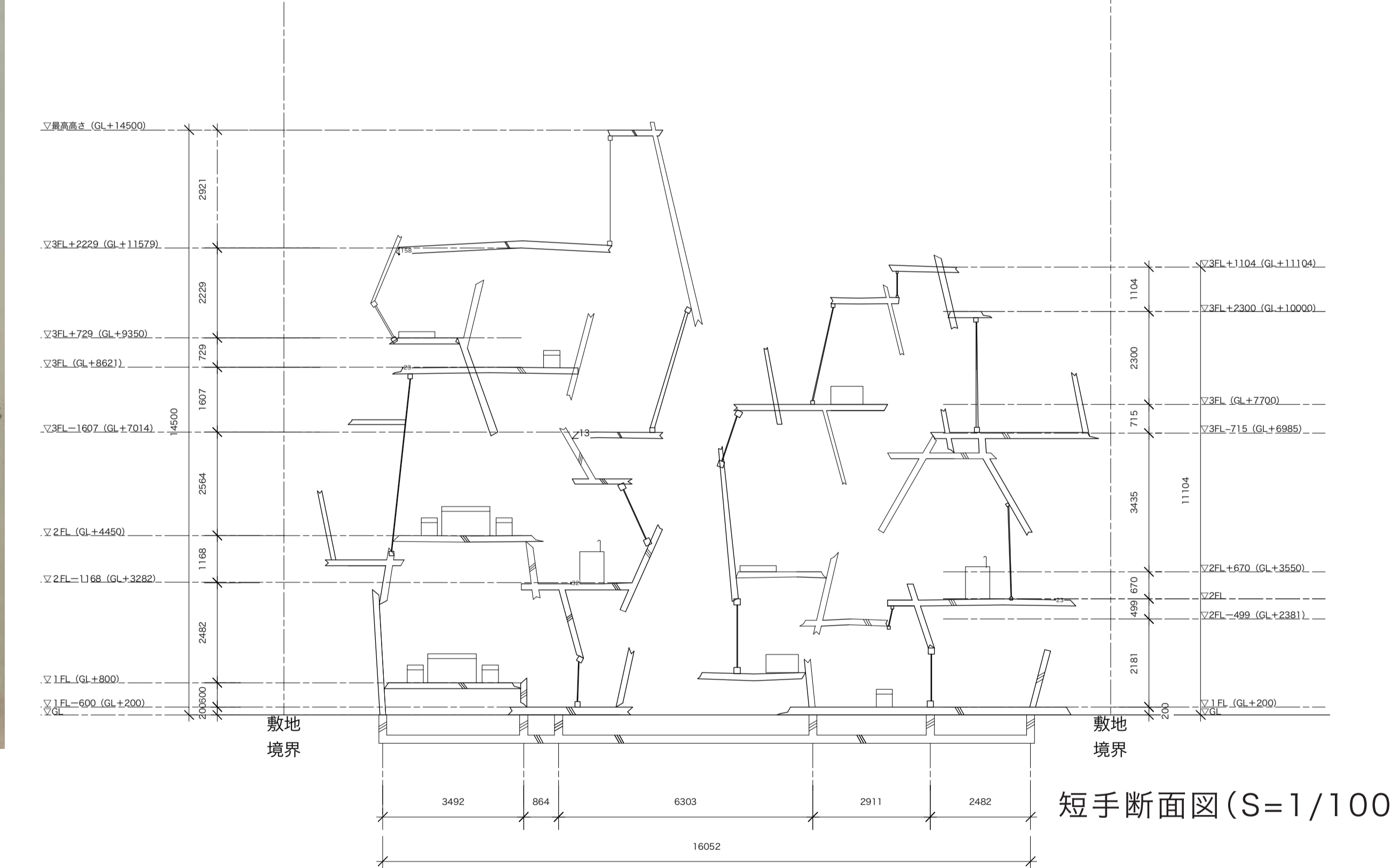
中庭に面するこの場をクッションを置いて本を読む場とし、棲まう場とする



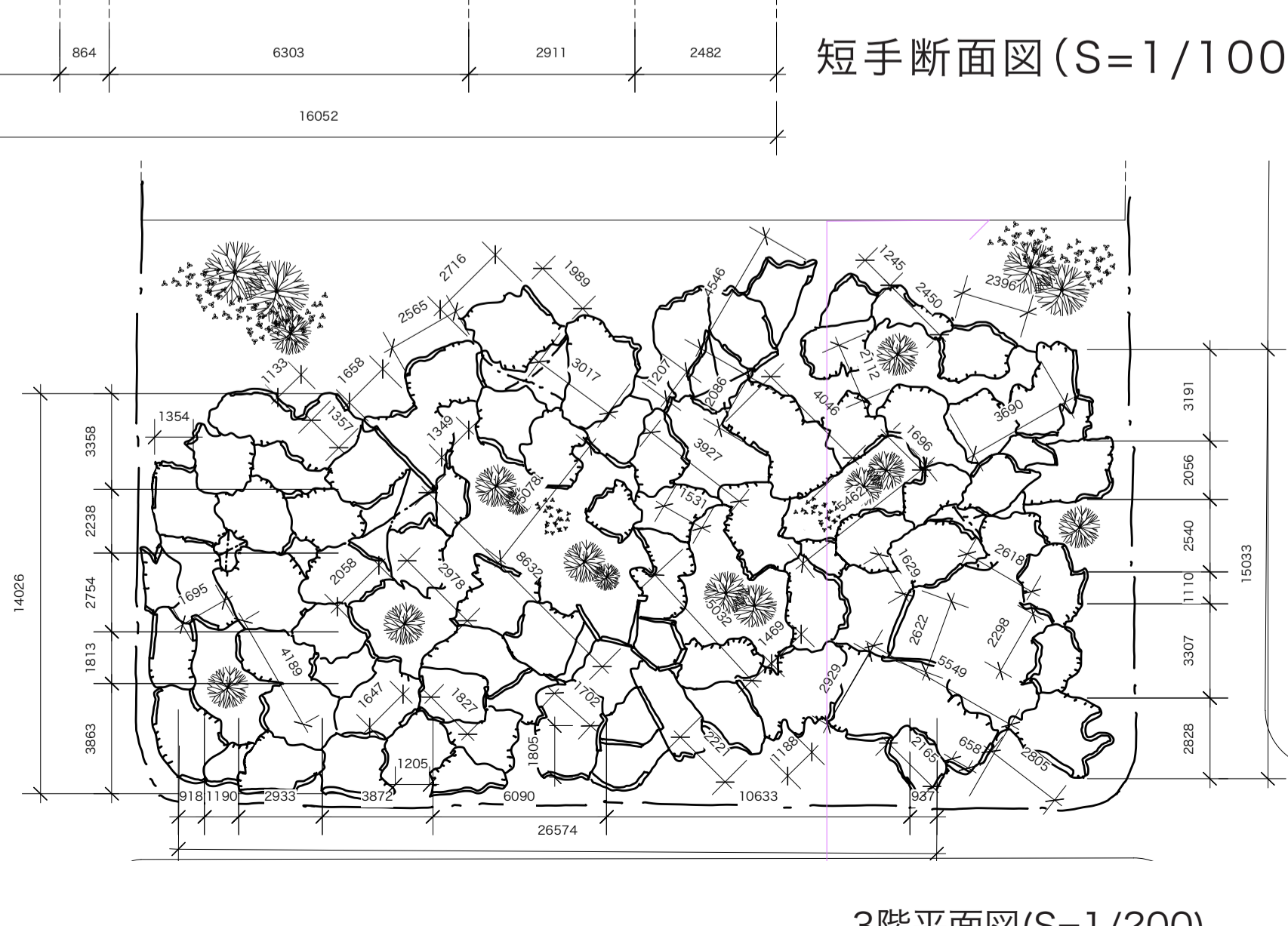
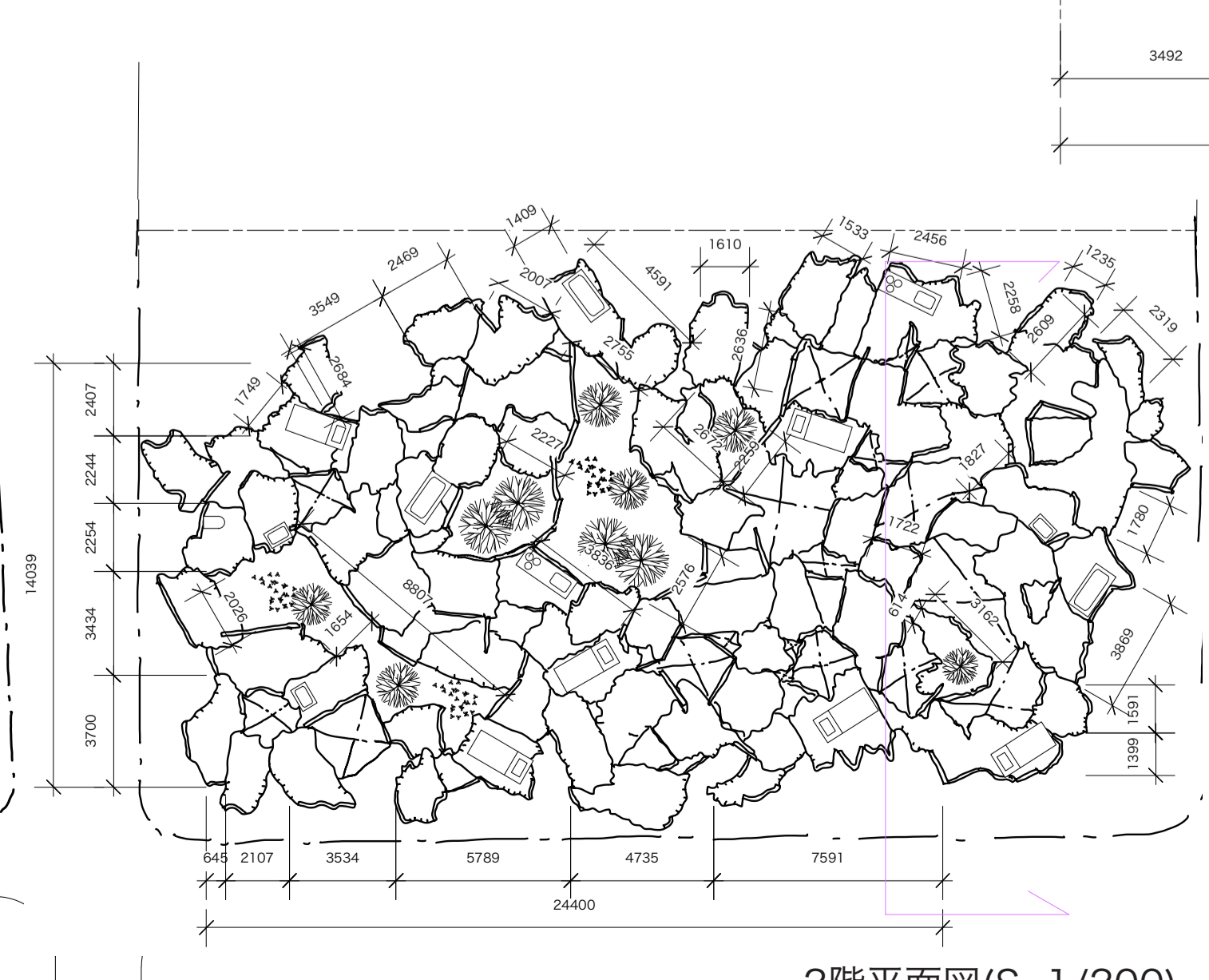
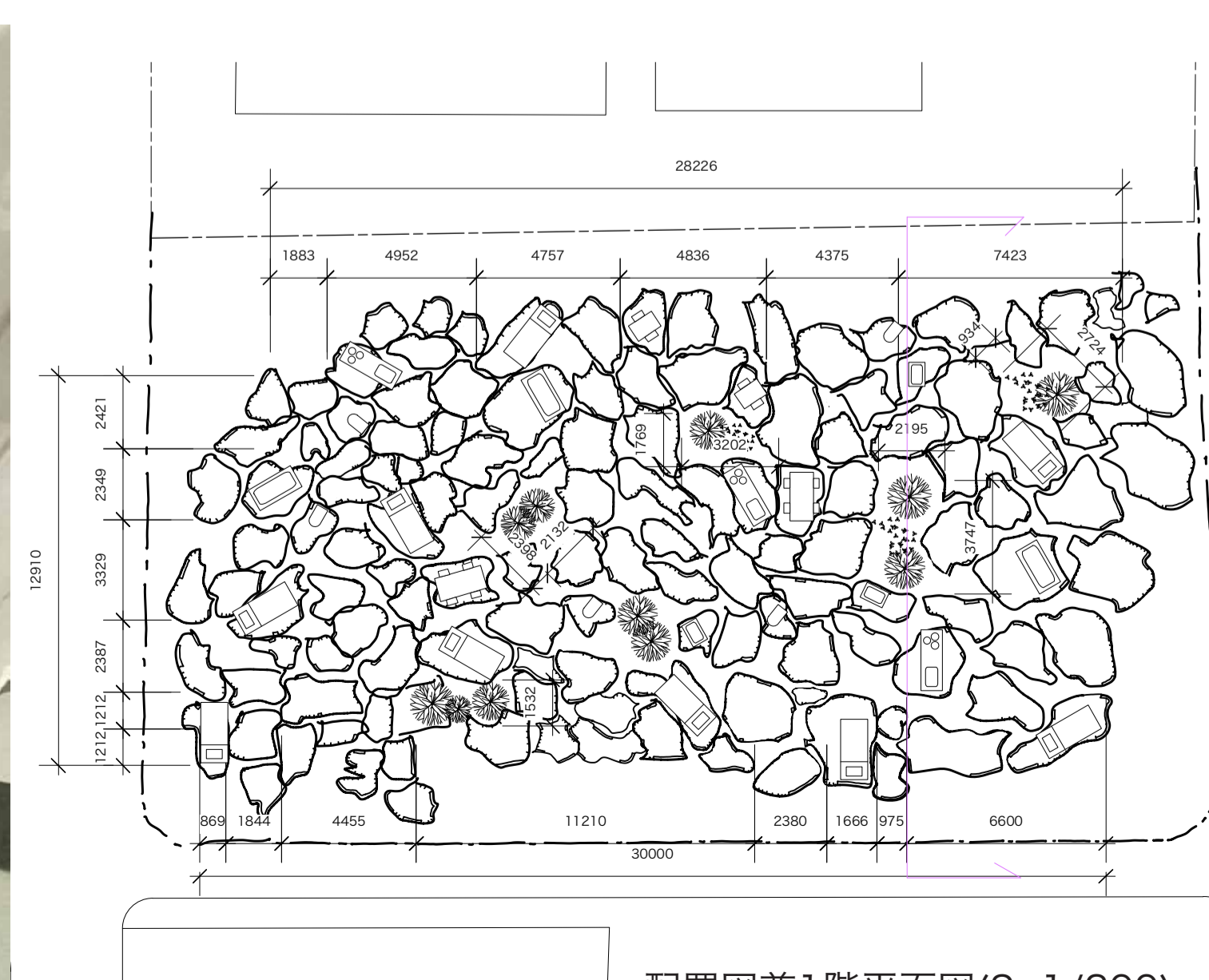
リクライニングチェアを持ってきて座りながら、上を見上げる



視線を介して棲まう人がつながったり、袖壁や腰壁で視線を適度に遮ったり、吹き抜けを介して音が響き合いつながったり、これらを空間の連続性と捉えると、階段によって空間が途切れているこの状態も、空間の連続性はあると考えることができるのではないだろうか。そして、このような壁や床を分解してピースを繋ぎ合わせたことによって生まれた『棲まう場』を、人は主体的に選択する。



一人で過ごす人のそばを通り過ぎ、気配を感じる



短手断面図(S=1/100)

配置図兼1階平面図(S=1/200)

2階平面図(S=1/200)

3階平面図(S=1/200)